

記事の作成マニュアル

ブログで稼ぐためには、わかりやすい記事を書かなければいけません。

とはいえ、文章を書くのが難しい方がほとんどですよね。僕自身ブログで月 200 万円稼いでいますが、最初からわかりやすい文章書けたかと言うとそうではありません。

そこで、僕が意識しているポイントをわかりやすくまとめました。

簡単にいうと、記事の作成マニュアルです。これを参考にして記事を書いていただければ、わかりやすい文章を書けるはずです！

まず、具体的な記事構成をご紹介する前に、読みやすい文章を作成するコツについて解説します。

読みにくい漢字を使用しない

これは読み手の気持ちになって考えると非常にわかりやすいのですが、**漢字が多い文章は非常に読みづらいです。**

特に以下の漢字は読みづらいため、できるだけひらがなで表記するようにしましょう。

- ・ 下さい→ください
- ・ ○○の為→○○のため
- ・ 即ち→すなわち
- ・ 但し→ただし
- ・ 何故→なぜ
- ・ 頂く→いただく
- ・ 付く→つく
- ・ ○○の様に→○○のように
- ・ 欲しい→ほしい

ひらがなにしないではいけない漢字が決められているわけではないため、以下のように覚えておくと良いですね。

「できる限りひらがなにできるものは漢字を使わない」

ただし、**なんでもひらがなで書けば良いというものではありません。**

ひらがなばかりだと、逆に読みにくくなってしまうこともあるので、バランスをしっかりと調整していくことが大切です。

一文を長くしすぎない

一文が長すぎてしまうと、ぱっと見たときに読みにくいとってしまいます。

読みにくいと感じてしまった記事は、最後まで目を通してもらうことができません。

今の時代、ほとんどの人がスマホで記事を読んでいるため、できる限り一文は4行以内になると良いですね。

長くなってしまいそうなときには、途中で区切るようにしましょう。

例えば、

「久しぶりに体重計に乗ったら、体重が5キロも増えていてかなり驚きました**が**、夜寝る前におやつやご飯を食べてしまうことが多かった**ので**、これが原因で太ってしまったのだと気がつき、今夜からは夕方以降食べないようにしました。」

上記の文章を、以下のように変えていきます。

「久しぶりに体重計に乗ったら、体重が5キロも増えていてかなり驚きました。
夜寝る前に、おやつやご飯を食べてしまったのが太った原因です。
今夜からは、夕方以降食べないようにしています。」

読みやすさが、かなり違うと思いませんか？

同じような意味を持つ文章であっても、区切りを入れてあげるにより格段に読みやすくすることができます。

ただし、文章によっては区切ることをせずに、できるだけ続けたい時もありますよね。

そのようなやむを得ないときには、「」で文章を読みやすくしてあげるのも良いですね。

「久しぶりに体重計に乗ったら、体重が 5 キロも増えていてかなり驚きましたが、夜寝る前に「おやつ」や「ご飯」を食べてしまうことが多かったので、これが原因で太ってしまったのだと気がつき、今夜からは夕方以降食べないようにしました。」

上記でご紹介した最初の文章と比較すると、少しは見やすくなりました。

日ごろから、読む人にとってストレスのない文章を心がけていると、多くの人に目を通してもらえるようになります。

体言止めは使いすぎない

体言止めは、リズムカルな文章を作るために使われています。

例えば、

「今日の夕飯はお肉がメインです。好物なのでとてもおいしかったです。」

上記の文章に体言止めを活用すると、以下になります。

「今日の夕飯はお肉がメイン。好物なのでとてもおいしかったです。」

このように、文章をテンポよく作るために体言止めは利用されているんですね。

体言止めを上手に使うことができれば、「です」などの同じ言葉を、連続して使わなくて済みます。

しかし、いくら便利であっても、次のように使いすぎてしまうと読みにくくなるし、語りかけるような文章が作りにくくなります。

「今日の夕食はお肉がメイン。好物なのでとてもおいしかった。毎日食べたいけど、お肉ば

かりだと太る。食べても太らない体質になりたい。」

人は親しみやすい柔らかな文章に惹かれる傾向があります。語尾を上手に使いわけながら、適切な箇所にのみ体言止めは活用してください。

ムダに改行しない

改行は、基本的に句点（。）でおこないます。

（、）で改行してしまうと文章が読みにくくなってしまいますからです。

ただし、例外として「」であれば句点と同じように活用することができます。

～良い例～

「今日のお昼はサイゼリヤでした。
パスタとピザが、とてもおいしかったです。」

「今日のお昼は「サイゼリヤ」
パスタとピザが、とてもおいしかったです。」

～悪い例～

「今日のお昼はサイゼリヤでした。
パスタとピザが、
とてもおいしかったです。」

専門用語は意味まで表記する

記事作成をしていると、さまざまな知識が身につきます。

自分でも気がつかない間に、ユーザーにとって、わかりにくい専門用語を使ってしまうことがあるんですね。

例えば、美容整形について記事作成をしていると、よく出てくる言葉が「ダウンタイム」です。

なんとなく意味がわかる方も多いのですが、なんのことだかさっぱりわからないといったケースもあるんですね。

このようなときには、**ダウンタイム（回復期間）と表記**するか、ダウンタイムについての説明文を簡単に入れてください。

いつどこで、誰があなたの記事を見るのかわかりません。

誰にでもわかりやすく伝えているのが、多くの人から読まれている検索数の多い記事になります。

基本の記事構成

それでは、本題となる記事構成について解説します。

記事構成は、タイトルの次に見出しを作成するのが基本的なやり方です。

記事作成のジャンルはかなり幅広いため、ここから先は、ダイエット食品を紹介したい記事を仮定していきますね。

ダイエットに関心が集中しているのは、20～40代です。

この年代の女性が、興味のある内容でタイトルを決める必要があります。

例えば、

- ・即効性がある
- ・短期集中
- ・リバウンドしにくい
- ・楽しく痩せられる

このような内容がタイトルに入っていると、**魅力を感じ、興味を抱いてもらえやすくなりますね。**

また、以下のように時期を限定したり、ダイエット法を絞ったりするのも効果的です。

- ・夏までに痩せる
- ・正月太り解消
- ・置き換えダイエット
- ・筋トレダイエット

今回は、「効果抜群！リバウンドしにくい短期集中ダイエット法」このような仮タイトルで作成していきます。

見出しを作成する

記事作成に慣れた方の場合、最初に見出しを作成しなくても、しっかりと起承転結の文章が作れることもあります。

しかし、これはあくまでプロライターの方の話で、一般的にはタイトルを決めた後に見出しを全て作成してしまいます。

途中で組み立てるよりも、最初から組み立てておいた方が、記事を作成しやすくなるからです。

見出しの作り方のポイントは、以下の2つとなります。

- ・わかりやすさ
- ・順番

わかりやすさは、いかにシンプルに伝えることができるかです。

そして順番は、ユーザーが欲しい情報を、わかりやすく伝えてあげる順番になっているかが大切ですね。

例えば、見出しの作り方で参考になるのが薬の箱に書かれている表記です。

薬の箱には、

- ・薬の効果
- ・用法
- ・副作用の説明

このように、欲しい情報がわかりやすく並んでいます。

これを、自分の記事に当てはめながら見出しを作っていく必要があるため、今回の記事の見出しを作成する場合には、次のような見出しタイトルとなります。

- ・見出し1「ダイエットでリバウンドしてしまう理由」
- ・見出し2「スムージー置き換えダイエットの効果」
- ・見出し3「スムージー置き換えダイエットを成功させるコツ」
- ・見出し4「スムージー置き換えダイエットの口コミ」
- ・見出し5「おすすめスムージー置き換えダイエット商品」

・見出し6「まとめ」

見ていただくとわかるように、特に魅力的なことが書いてあるわけではありません。

しかし、誰が見てもわかりやすいシンプルさがあると思いませんか？

さらに、ユーザーが求めている情報が、わかりやすい順番で並んでいます。

見出しは、**仮に小学生が読んだとしてもわかりやすいようにするのが、基本中の基本です！**

導入文を作成する

見出しに入る前に、まず導入文を作成します。

導入文は、記事を最後まで読んでもらうための、かなり重要な部分です。

しっかりと興味を抱いてもらうためにも、以下の4つのパターンから組み立ててみましょう。

・導入文パターン1「悩みに共感してから解決策を提案する」

人は、悩みを共感してもらうことで親近感が湧きます。

「わかるわかる！」といった共感を交えつつ、解決策に導いてあげるのが、導入文パターン1のポイントです。

～例～

「短期集中型のダイエットをしていると、挫折したり、リバウンドしてしまったりすることってよくありますよね。

時間をかけてダイエットすればリバウンドしないなんて聞きますが、今すぐ痩せたい人にとって長期的なダイエット法ではあまり意味がありません。

そこで今回は、リバウンドしにくい短期集中ダイエット法をわかりやすくご紹介していきます。

ます！」

・導入文パターン2「問いかけから始める」

記事を読んでいる方に、問いかけていく導入文の作成方法です。

悩みを解消するための方法を、具体的に表記してしまうのがポイントです。

～例～

「短期間で痩せることができるスムージー置き換えダイエットをご存知でしょうか？
この方法なら、今までリバウンドや挫折を繰り返してきた方であっても、楽しんで理想の体型
を手に入れることができます！」

そこで今回は、スムージー置き換えダイエットが短期間で痩せられる理由や、おすすめの商
品をご紹介します。」

・導入文パターン3「イメージと現実のギャップを紹介する」

世の中には数多くの記事が出回っています。

他の記事と差をつけるために、強い興味を抱かせるのが、導入文パターン3の特徴です。

～例～

「今まで、太っている人と痩せている人の違いは体質だと思われてきました。
しかし最近になって、太っている人と痩せている人は、腸内環境に大きな差があることがわ
かったんです！」

今回は、リバウンドする原因に注目しながら、短期間で効果的に痩せられるリバウンドしな
いダイエット法をご紹介します。」

・導入文パターン4「キーワードにスポットを当てる」

自分が紹介したいキーワードにスポットを当ててしまうのが、導入文パターン4のポイン
トです。

～例～

「リバウンドしにくいと話題を集めている短期集中のダイエット法が、スムージー置き換えダイエットです。

そもそもスムージーとは、野菜や果物をミキサーで混ぜたものになりますが、果たしてこれで本当にリバウンドしないのか気になりますよね。

そこで今回は、スムージー置き換えダイエットでリバウンドしにくい理由や、口コミで人気の商品を厳選してご紹介します。」

見出しの中を埋めていく

充実した内容で見出しの中を埋めていくためには、しっかりとした情報収集が必要です。

一つの情報を鵜呑みにして紹介するのではなく、**自分なりにしっかりとリサーチすることが大切です**ね。

また、紹介したい情報がいくつかある場合には、小見出しを作成することで読みやすくなります。

例えば、見出し1にある「ダイエットでリバウンドしてしまう理由」の場合は、以下のよう
に小見出しを作っていきます。

- ・リバウンドする理由1「空腹感」
- ・リバウンドする理由2「我慢の反動」

理由を説明するときには、淡々と説明していくのではなく、ユーザーが共感できるようなポイントを以下の例のように、具体的に入れておくと良いですね。

～例～

「**お腹が空くと食べ物**のことで**頭がいっぱい**になり、いつもより食べたい気持ちが大きく

なりませんか？」

「我慢ばかりしていた反動で、大好きなチョコレートやケーキを満足するまでお腹いっぱい食べたくなくなったりするんですね。」

最後の「まとめ」は記事の要点を整理するもの

まとめの見出しは、必ず必要なわけではありません。

文字数の少ない記事には必要がない場合もあるため、記事全体のバランスを見ながら作成します。

基本的にまとめの役割は、紹介した記事の要点をユーザーが整理するためにあります。

最後まで文章を読んでいると、重要なポイントが抜けてしまうこともあるため、そこを再確認させるためにも必要となるんです。

また、まとめを作成するにあたり、以下のポイントが含まれていると理想的ですね。

- ・記事の締めであることがはっきりとわかるようにする
- ・記事を読んで「やってみよう」「購入してみよう」といった行動を促す文章を入れる
- ・重要ポイントは見やすいように箇条書きにする

最初は難しいと感じるかもしれませんが、慣れてしまえばある程度のパターンができあがります。

初心者でも簡単に記事作成が成功する3つのポイント

「作文すら苦手なのに、記事作成なんて自信がない」

初めて記事作成する人の多くが、このように感じています。

そこで、初心者でも簡単に記事作成が成功する 3 つのポイントを今からご紹介していきますね。

ポイント 1「文字数にこだわらない」

最初から文字数にこだわりすぎてしまうと、ムダな言い回しが増えてしまいます。

良い文章は、わかりやすい文章になるため、**できるだけシンプルに完結させてください。**

～悪い例～

「ダイエットするということは、痩せるために我慢をするということです。」

～良い例～

「ダイエットは、痩せるために我慢をすること。」

ポイント 2「必要な情報は頭の中で組み立てておく」

記事作成で一番頭を悩ませるのが、見出しを埋めていく作業です。

自分で作った見出しでも、**途中で何を文章にすれば良いのか、わからなくなってしまうことも少なくありません。**

スムーズに文章を作成するためには、あらかじめ必要な情報を、頭の中で組み立てておくとうりやすくなります。

情報収集してからノートにメモをとるのも良いですし、スマホのメモ帳アプリなどを活用し、必要な情報を保存しておくのもおすすめです。

ポイント 3「ユーザー目線で作成した記事を読み返す」

記事作成をした直後は、慣れない作業にとっても疲れていると思います。

少し時間が経ってから、自分の書いた文章をユーザー目線で読み返してみてください。

- ・わかりやすく伝えられているか
- ・読みにくい文章はないか
- ・誤字・脱字はないか

この3つをしっかりとチェックしておけば、後から自分の書いた記事を修正する必要もありませんね。

まとめ

今回は、誰でも簡単に始められる記事作成マニュアルをご紹介します。

記事作成の基本は、シンプルでわかりやすいことです。

多くの人にとって参考になる情報を、しっかりと文章にすることができれば、自然とユーザーは増えます。

ぜひ諦めずに、地道な努力を続けてみてくださいね！